



懐徳堂: www.cafe-kaitokudo.com

懐徳堂という 場所から 見えるもの

2024 02月 10日 Sat
14:00-16:00



懐徳堂は1724年(享保9)大坂商人たちによって今の中央区今橋3丁目に建てられた学問所で、奇しくも今年に設立300年にあたります。大正時代に内藤湖南などが大いに顕彰に努め、大正5年には現在のマイドーム大阪の地に重建懐徳堂が建てられました。終戦まで市民大学として親しまれたにもかかわらず、今では懐徳堂の名前を知る人はほとんどいません。寛政期に最盛期を迎え、明治2年まで存続した懐徳堂は、当時江戸の昌平黌をも凌ぐといわれる学問の中心地でした。その懐徳堂が何故忘れられてしまったのでしょうか。江戸時代の懐徳堂から現在の大阪を見てみると、何が見えてくるのでしょうか。

私はかつて重建懐徳堂があった場所の近くに、人々が自由に集まり学べる場所としてのブックカフェを開き、「哲学カフェ懐徳堂」と名づけました。それは教職時代からの私の夢でもありました。10坪あまりのささやかな空間ですが、少しでも懐徳堂の灯を継いでいけたらと願っています。



参加費

一般 2,000円 学生 500円

■会場

大阪市立総合生涯学習センター
(大阪駅前第2ビル5階) 第3研修室
〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-500
大阪駅前第2ビル5・6階
TEL:06-6345-5000 (代表)

■申込方法

メール連絡のみで受付事務局
下記までご連絡ください
Email: sec@kajinken.jp

定員 36名



話題提供者

みやがわ やすこ
宮川 康子 氏
哲学 cafe 懐徳堂 堂主



1953年東京生まれ。1977年神戸大学文学部卒。1992年大阪大学文学研究科博士課程後期単位取得退学。専門は日本思想史。千葉大学、京都産業大学で教鞭を取る。2020年に京都産業大学を退職。2022年大阪中央区糸屋町に自身の蔵書を展示し自由に読んでもらえるブックカフェ「哲学カフェ懐徳堂」をオープン。読書会や市民講座なども開いている。大学院時代から大阪の町人学問所懐徳堂の研究に従事し、その後町人学問所の源流とも言える京都の古義堂の研究も進めてきた。主著は『富永仲基と懐徳堂』(ペリかん社)、『自由学問都市大坂』(講談社メチエ)。

町に自身の蔵書を展示し自由に読んでもらえるブックカフェ「哲学カフェ懐徳堂」をオープン。読書会や市民講座なども開いている。大学院時代から大阪の町人学問所懐徳堂の研究に従事し、その後町人学問所の源流とも言える京都の古義堂の研究も進めてきた。主著は『富永仲基と懐徳堂』(ペリかん社)、『自由学問都市大坂』(講談社メチエ)。